

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』 第169号

-環境・農業・食べ物など情報の交流誌-

2005.10.20 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の

交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_index.htm](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm)

\*\*\*\*\*発行部数 1365 部\*\*\*\*\*

---

□ 目次 □-----

<今週の提言> 農業・農村と平和を守る 安富六郎

<読者の声> 今井さんから；高田さんから

<老兵の戯言> 畜産学徒とは、一体何者？ 藤原 昇

<リトルファーミングクラブ だより>

兼農ライフのノウハウは、独自の世界を持っている 増山博康

<玉川上水の謎> その10 ルート選択の妙 安富六郎

<新刊・読后感> 『私の戦後六〇年—日本共産党議長証言』不破哲三 著  
自衛隊を戦争のできる軍隊に帰る憲法改正の中心点を見失うな。 原田 勉

<お薦めサイト・絵本> 「戦争のつくりかた」 原田太郎

<イベント> 劇団文化座 戦後60年アトリエ企画「シリーズ・いのち」

<編集後記> 客商売の基本がくずれているような気がする

---

<今週の提言> 農業・農村と平和を守る

---

先日の衆議院総選挙の課題となった郵政民営化は多数の賛成で国会を通った。しかし農村にすむ人は、まずその利便性の低下を気にするだろう。郵政法案を通す目的だけで総選挙すること自体、おかしいことである。

かつて、アメリカにゲリマンダー選挙区(1812-1964)と言うものがあつた。これは与党の政権維持のために都合よく区分された選挙区である。これで票を集め政権を保った。日本のいまの小選挙区制もその意図は似ていて、この制度は与党の圧勝をますます確実にしている。

第一次大戦後ドイツは新しいワイマール憲法で再出発した(1919)。民主主

義の手本とされたこの憲法も、経済不況を克服できずに、結果としてナチの台頭によって、消滅した（1933）。民主主義には監視とそれを守る行動がいつも必要なであろう。

靖国参拝の演出によって軍国調は高まり、この影響で国際緊張も高まる。これを理由に憲法改正論議は急展開しないとも限らない。放っておけばとんでもない方向に変貌するかも知れない。郵政民営化も憲法改正の方向性を定めるのにも政府は国民の意見よりも上からの意見を重視しているようだ。この民営化と改正の両者が一体化してアメリカの世界平定の道具にされては大変だ。そのためには選挙でしっかりと意見を持った人を選ばねばならない。

いま、戦争はコンピューターゲームになってしまい、若者には戦争の悲惨さ恐ろしさはほとんど伝わっていない。平和の尊さを知らないこの状態が再びあらぬ方向に進むと危惧される。戦争の悲人間性と農業の大切さを知るには電子耕はおおいに役立つ。とくに若い人にこのメルマガを読んでもらい、また奨めてもらえたら世界の平和にもつながることだろう。

安富 六郎

山崎農業研究所会員・電子耕編集同人

y.nouken@taiyo-c.co.jp

---

<読者の声>

---

=====  
●10/05 今井さんから；うちのおばあさま

祖母は、戦争体験者であり、自分の母親も女の子だったためか、本当に（帰国には）苦労したみたいです。

今までなんにもいわなかったけれど、身内（私の父：母の夫）が亡くなると、みんな死んでいく、とそころのこをぼつり、ぼつりと、私の父がなくなったとき（通夜の夜）、はじめて、ハルピンからどうやって、生き延びてきたか、詳細なメモまで出して何年にどうしたか、韓国の人に助けられて、とか、母親もはじめて聞くことなどが、ことこまかく、メモしてあるのには、びっくり！！

やっと日本に帰っても、すりに身ぐるみもっていかれ、もうだめ、それでもやっと故郷にかえってきたら、身内にいじめられ、自殺しようとしていたところ、駐在さんにたすけられた、などなど。

おばあちゃんは、饒舌でした。いま、こんなにもコンピュータが発達していて（息子はNECなのに）、なんでも調べることが、できるなら、あのとき、娘と、腹がすいてどぶの水を飲んでいたとき、優しく助けてくれた、韓国のお人になんとしても“ありがとう”のひとことが、いいたい…… 自分では、どうしようもなく、“韓国の方角に感謝”手を合わせるることしか……

祖母が命がけで、帰国しなかったら、いまの自分はなかったし、皆さん（電子耕）の貴重な体験もわからなかったとも思うと複雑です。残り少ない開拓団（黒竜江省）の方がいれば、祖母に連絡したいです。どうぞ、よろしくおねがいいたします。

◆原田勉からのコメント：

今井さん、お便りありがとうございました。貴重な体験です。私たちの世代は、いろいろな戦争体験をしてきましたが、それもやがて消え去るかと思うと残念です。

今井さんのおばあさまの話も、そしてあなたの母上様の体験も貴重です。特に帰国の途中に、韓国の人たちに優しく助けられたことは、今後もぜひ、詳しく電子耕に連載してください。お願いします。これが私達の戦争に反対する方法の一つだと思います。

=====

●10/16 高田さんから；メンカン便り（※メンカン＝ゾンカ語で病院）

病院の切り立った小川の向かいにはアパ・ドペ（Ap Dawpel／アパは「お父さん」の愛称）と呼ばれる老人が住んでいる。数年前優れたブータン民謡の歌い手として国王より勲章を授与された。最近小川に架けられた橋を渡りこの老人が院内に設置されているマニ車を毎日廻しに訪れるようになった。気分が乗っている日には彼の歌声がマニ車の奏でる鈴の音と共に中庭に響き渡り治療に当たる側、受ける側、しばし老熟した響きに耳を傾けている。

さて、今回は薬の話。現在ブータン国立伝統医学院内、調剤研究所(PRU:

Pharmaceutical and Research Unit)では98種類の処方薬が製造されている。丸薬、タブレット、粉剤、シロップ、カプセルが所狭しと薬棚に並ぶ。伝統薬の原料の殆どは国内で産出、一部はインドから輸入されている。原料となる植物、鉱物、動物材料は各地から一端首都ティンブーの調剤研究所に集められここで調剤された後全県の病院に配布されていく。

ブータンはその特異な地形の恩恵を受け多様な植物相を見せている。600種以上の植物が確認されておりその中の300種ほどが薬の原料として利用されており古くから近隣諸国から「薬の国」と呼ばれていた記録も残されている。海拔200Mというジャングルではインドのアーユルベーダー由来の薬草が採取され、また溪谷では地中海性の植物も確認されている。

特筆すべきは7000M級のヒマラヤ山系からの珍しい豊富な植物原料である。現在この国では高山植物における生産技術がないため6月から8月の間、伝統治療院の職員が交代で片道5日の行程で山に入り（首都ティンブー2300Mでも十分に山の上ではあるが…）原料の採集に当たっている。山小屋で乾燥させた材料はティンブーの工場の倉庫で1年分の薬のストックとなる。

もちろんこうやって作られた薬は患者に無料でサービスされている。ブータンが世界に誇る医療の無料サービスではあるが現在、開発に伴う人口の増加で医療費の問題を抱えている。西洋式の病院で配布される薬はすべて外国からの輸入に頼っている。しばし病院では薬のストックが尽き私営の薬局で購入しなければならないという事態が既に起こっている。政府保健省はこれまで全県に伝統医を配属させたが近い将来その傘下にある診療所(BHU: Basic Health Unit)にも伝統医療従事者の派遣を計画している。伝統薬が普及すればそれだけ薬の占める医療費が削減され未来における無料サービス継続が可能となるであろう。世界に先駆けた小国の取り組みである。

ブータン伝統医学院 鍼灸治療室

高田忠典

※マニ車：経文が中に納められており1周回すたび納められた経文を1度読んだ御利益があるとされる。

---

<老兵の戯言> 畜産学徒とは、一体何者？

---

最近、ある小冊子の奇妙な記事が、筆者の目に留まった。それは「動物の幸せ」について論じた、ある動物行動学者の研究紹介、「豚」を使った観察記録であった。それを拝読しているうちに、なんだか不思議な感情がこみ上げてきた。

その中に、筆者が子供の頃から、見聞してきた多くの事象が、まことしやかに論議され、あたかも「新しい事実の発見」であるかのごとく、述べられていたのに、びっくり仰天し、筆者の40年前を思い起こした。

当時、農高の教師をしていた筆者は、「牛豚混牧」という新方式を考案し、「豚の早期離乳」という研究に取り組んだ。その結果「年3回分娩」を実現させた。

上記の研究者は、60歳近くになって、初めて、自然の豚の交配と分娩に出くわしたのであろうか。こんな記事を見ると、「家畜を知らない者」が「畜産研究者」になってはいけない、と思ってしまう。

しかし、今、大学の農学部に入るためには、「算数と英語」が出来なければ駄目で、「家畜を知って」いても、何の役にも立たない、おかしい話である。

今、巷では「役人天国」とか「官僚支配」とか、言われているが、「農業を知らない者」が、この国の農政に携わっているのも、奇妙な現象である。

かくいう筆者も、これまで30年余り「大学農学部」の教師をしてきたが、「家畜を知っている」ことを活用した研究など、何一つして来なかった。これでは「どっちも、どっちだ」と言われても仕方がないか。

藤原 昇

山崎農業研究所会員・元九大大学院教授

[y.nouken@taiyo-c.co.jp](mailto:y.nouken@taiyo-c.co.jp)

---

<リトルファーミングクラブ だより>

兼農ライフのノウハウは、独自の世界を持っている

---

兼農ライフしたい人達に、野菜やお米の育て方を伝える場合、

重要なことは、リトルファーミングは、独自の世界を持っているということです。

例えば、マリーゴールドをダイコンの近くに植える農法があります。マリーゴールドの根から出る分泌物によって、病気の原因になるセンチュウを予防する技術を応用したものです。

「営農」と言う立場から考えれば、有機農法の導入で、農産物の付加価値を高める技術ですが、都会の人達からは、「お花が畑の中で咲いてきれい、しかも農薬を使わないからヘルシー」と受け止められます。

都会の人達に野菜の育て方を伝えていく場合には、既存の農業技術を、こうした「視点」の転換を持って取り上げていくことが重要になります。

首都圏帰農サポートネットワーク（帰農ネット）で実施しているリトルファーミングのための講座では、都会の人達が独自の世界を広げていくお手伝いをしています。

#### ◆田舎的暮らしと野菜の育て方の情報サイト

リトルファーミングクラブ by 首都圏帰農サポートネットワーク

後援 社団法人 農山漁村文化協会

ウェブサイト：<http://www.kinou.net> メール：[info@kinou.net](mailto:info@kinou.net)

環境クラブ代表

首都圏帰農サポートネットワーク事務局長 増山 博康

---

#### <玉川上水の謎> その10 ルート選択の妙

---

多摩川で造られる武蔵野台地を模式的に示せば、青梅を要（かなめ）とする扇状地と見なすことができる。その上にできた洪積台地の街道は緩やかな勾配で東南に下る。道路は人の歩く道であるが、災害に強く、歩き易く、目的地へ快適な旅ができることが重要だろう。これは水の流れにも似て、多くの人の経験によって作られる軌跡でもある。こうして青梅街道、江戸街道、五日市街道、人見街道、甲州街道など江戸につながる道が自然発生的に公道として定着したと思われる。

上水のルート（道筋）計画にはこの道路を軸として水路の路線が選択されたのではなかろうか。街道周辺には多くの井戸もあるので、水位や土層の状態もわかる。街道を軸にトラバース（骨組み）測量すれば高低差など工事に必要な情報が容易に得られる。このような考えから見ると、多摩川からの取水地点に対応する少なくとも3つのルートが想像される。これは微地形図から容易に描くことができる。

- (1) 羽村→旧青梅街道（\*）→五日市街道 →甲州街道→新宿
- (2) 羽村→五日市街道筋→甲州街道→新宿
- (3) 羽村→立川→武蔵小金井→連雀通り→甲州街道→新宿

(1) では旧青梅街道に水路を沿わせる。(2) は現在の水路で、(3) は立川あたりから JR 中央線に沿って東西に水路を走らせ、武蔵小金井で連雀通りにのせ、甲州街道に導く道筋である。

微地形図を検討すると、(1)、(2)、(3) はいずれも幾つかの難所、低地、谷津を通過または迂回せねばならない。(1) については取水点から深い切通しで水路を旧青梅街道に乗せ、小平（津田塾大学付近）で五日市街道に沿わせる。そして現在の上水路と同じ路線で甲州街道を通る道筋である。これは工事経費はかかるが、武蔵野に用水路網を造るには最もよい。(3) については取水点からすぐ甲州街道に乗せられないので一旦これから離れなくてはならない。これによって道筋の周辺情報が把握できないことになろう。

現在の道筋である(2) は他の2者と比べて主要河川の横断数は1ヶ所あるのみで、3つのルートの中では最も条件がよい。しかも谷津、低地も迂回できる。これがいかに理に叶ったものか。いまでもこれ以上の計画は不可能であろう。技術精度の高くない時代に、この正確な地形選択には超人的なものを感じず。これには多くの人による長い間の調査と勇断を必要としたことであつたろう。（\*現在は一部が江戸街道）

安富 六郎

山崎農業研究所会員・電子耕編集同人

y.nouken@taiyo-c.co.jp

自衛隊を戦争のできる軍隊に変える憲法改正の中心点を見失うな。

---

『私の戦後六〇年-日本共産党議長の証言-』 不破哲三 著

(インタビュー 角谷浩一) 新潮社 2005 年 8 月 23 日発行

<http://shinchosha.co.jp/cgi-bin/webfind3.cfm?ISBN=478301-3>

戦後の日本政治を語った「私の戦後六〇年-日本共産党議長の証言-」が新潮社から出版された。やや冷たい感じのある共産党幹部が始めに語ったのは「軍国少年」だった子供時代の思い出。10歳の時、あこがれの吉川英治宅を訪ねた。「20歳になって、まだ書く気があったら、もう一度いらっしやい。」と忠告を受けた。

真珠湾攻撃のニュースに興奮した小学生時代。中学に入ってから作家志望の夢が、理系に転換し、軍艦に熱中し造艦技師を目指したが、学徒動員先の工場で終戦を迎えた。

戦後『聖戦』どころか侵略戦争だったという真実を知ったときの衝撃は大きなものだった。

しかし、それ以上に大きな衝撃は、戦中から侵略戦争の本質を見抜いて、反対し、獄中にあっても節を守り抜いた人たちと政党があったことであった。

そして、旧制一高の時、17歳の誕生日直前に上田健二郎（本名）として入党した。

東大物理学科卒業後、鉄鋼労連書記局勤務していた時代、占領政策が、「民主化」から「反動化」「基地化」と逆転し、占領軍は、ポツダム宣言を邪魔物扱いするようになった。

それが憲法制定に大きく影響した。

占領軍の作った最初の草案に込められた民主主義や平和の条項は、アメリカの政治的思惑が生み出したものではなく、世界の民主的世論の要請を背景にして提起されたものであった。

しかし、その中に「国民主権」の原則がないのに気付いた日本共産党は、新しい憲法では「国民主権」の原則を明らかにせよ、と主張した。国際的には、



極東委員会という 11 カ国からなる対日政策の最高機関が同じ決定を行って現在の憲法になった。

この憲法は、世界の世論と国内の平和と民主主義を願う二つの力が合流して生み出されたものだった。

しかし、中国共産党が内戦で勝利し、アジア情勢が激変する中で、アメリカは、新憲法の施行から一年もたないうちに、この憲法を改訂して、日本に軍隊を持たせる新方針の討論が始まった。アメリカの公開文書で明らかになった「日本の限定的再軍備へロイヤル陸軍長官から国防長官宛」で日本に軍隊を持たせることが目標だと結論されている。

これが日本の政治シナリオとなった。

アメリカにとって、日本は、独立を認めた後も、自分の意のままになる従属物でしかなかった。これ以後、日本の政治は、ここで建てられたシナリオ通りに動いていく。

私は、電子耕前号で「憲法改正は目前に迫っている」と訴えた。以下不破氏の著書でも憲法改定問題が述べられている。

アメリカと日本の戦争派が求めている憲法改訂の中心問題は「自衛隊を海外で米軍といっしょに戦争のできる軍隊にすること」である。

今まで小泉首相は、日米「運命共同体」論を説き、次から次に特別法を作って、海上自衛隊をインド洋に、陸上自衛隊と航空自衛隊をイラクに派遣しても、現在の憲法のもとでは、どうしても超えられない一線がある。

その一線とは、海外に派遣した自衛隊に、戦争をやらせるということで、この一線だけは、いくら憲法の条項にごまかしの「自民党的」解釈を施して見ても、超えることはできないのである。

憲法論議の中心点はどこか。国会の憲法調査会の最終報告で、意見が不一致とされた第 9 条の項目は、次の四点である。

(3) 第 9 条第 2 項の改正の可否。

(4) 集団的自衛権を認めることの是非。

(5) 自衛隊の憲法上の明記。

(6) 国際貢献の憲法上の明記。

この四点に、「自衛隊を戦争のできる軍隊にする」要件が全て含まれているのである。

ここに非常に大切な点があることを強調しておきたい。-これが不破氏の意見であり、改憲論議のポイントを明解に説いて見せている。

『私の戦後六〇年-日本共産党議長の証言-』 不破哲三 著

(インタビュー角谷浩一) 新潮社 2005年8月23日発行

<http://shinchosha.co.jp/cgi-bin/webfind3.cfm?ISBN=478301-3>

「反省も総括も検証も何もなかった、“頬かむりの戦後六〇年”を衝く！  
なぜ日本はこんな国になってしまったのか？ 安保改定に隠された「日米核密約」、北方領土が戻ってこない理由、アメリカが先導した改憲論と再軍備……  
国会議員生活三四年、一八人の総理と対面してきた著者が、自らの政治家人生を回想しつつ、戦後史の真実を語る。すべてが行き詰まった今こそ傾聴したい、日本人必読の書！」(新潮社 PR 文)

四六判変型／356 ページ／1785 円 (定価) ／ISBN:4-10-478301-3／

発売：2005/08/23

「立ち読みページ」「第二章 占領時代と新憲法」より

<http://www.shinchosha.co.jp/books/html/4-10-478301-3.html>

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

---

<お薦めサイト・絵本> 「戦争のつくりかた」

---

最近、いろんな掲示板に

「国民精神高揚運動連絡会」なる名前で、  
「我ら日本国民は、進んで改憲に協力しましょう。」という一文が投稿されているようである。

電子耕の掲示板にも、  
映画 日本国憲法  
<http://www.cine.co.jp/kenpo/>  
の掲示板でも発見した。

その本文は、「国民精神高揚運動連絡会」を検索してご参照いただくことにして、私は検索の際に見つけた絵本「戦争のつくりかた」とWEBで読めるサイトを紹介したい。

これは、  
アースデイ ジャパン インフォメーション  
<http://earthday.jp/>  
のBBSから知ったものである。

-----  
<http://earthday.jp/bluesbb+viewtopic.topic+5.htm>  
con\_safo 2005-9-25 22:16:24

こんばんは。

みなさまとおなじように、戦争と平和を考えているひとりです。  
9条改憲の声が高まっている今、私も何かしなければと、「戦争のつくりかた（マガジンハウス社）」に習って、出来るだけ幅広い年齢の方に読んでいただける話をつくってみました。  
出来るだけ、わかりやすい文章で書いたつもりです。  
よかったら、ぜひ読んでください。

「あたらしい戦争のつくりかた」  
[http://www.tamageta-condo.dyndns.org/~new\\_war/](http://www.tamageta-condo.dyndns.org/~new_war/)

それでは失礼します。

-----  
con\_safo さんは、その最後のページ

[http://www.tamageta-conda.dyndns.org/~new\\_war/19.htm](http://www.tamageta-conda.dyndns.org/~new_war/19.htm)

で、

-----

あとがき

これは、2004年6月14日に成立した有事関連法など、戦争のための法律や政令、法案、国会答弁の内容などを踏まえ、今後予想される、9条改憲という、この国の歴史の転換点にむけた、「何らかのアクション」です。

この話の元にさせていただいたのは、おしゃれな装丁の「戦争のつくりかた」(マガジンハウス)です。

解説や英語訳などがついています。

= 「戦争のつくりかた」の著作権について =

「戦争のつくりかた」サイト

<http://www.ribbon-project.jp/book/keitai/index.htm>

及び「戦争のつくりかた」絵本の著作権は、りぼん・ぶろじえくと、及び井上ヤスミチ氏に帰属します。

版權は株式会社マガジンハウスに帰属します。

また、「戦争のつくりかた」サイト及び「戦争のつくりかた」絵本の著作権は、非営利的使用に限りオープンとされています。

上記サイトのソースを「あたらしい戦争のつくりかた」に一部使用させていただきました。

2005年9月24日

con/safo

-----

と書いている。なお上記サイトは携帯iモードでも読めるサイトでページ数が多い。

検索の結果、本家は以下であることが分かった。

りぼん・ぶろじえくと

<http://www.ribbon-project.jp/>

絵本「戦争のつくりかた」

<http://www.ribbon-project.jp/book/>

「わたしたちは、未来をつくりだすことができます。

戦争しない方法を、えらびとることも。」

文：りぼん・ぷろじェくと 絵：井上ヤスミチ 日英翻訳：Adam Goodwin

価格：630円（税込）ISBN：4-8387-1543-9 マガジンハウス刊

#### ●紹介文から

「最近、あまり楽しいニュースを聞かなくなりました。

世界では悲惨な出来事が減るところか、

重苦しい緊張感が、常にわたしたちの周りを取り巻くようになった気がします。

ここ数年、日本も徐々に、しかし大きく変化してきているのを感じています。

以前なら、きっと成立しなかったであろう法案が、

十分な審議もなしに、いつの間にか国会で採決されています。

この先、この国はいったいどこへ行くのでしょうか？

それを考える一つの手立てとして、このたび、絵本「戦争のつくりかた」

を公開することにいたしました。

それは、未来のひとつの可能性を描いています。

単なる作り話のように見える話の展開が、

実はすでに成立している法律や、現在まさに国会で審議中の法案などに

基づいていることを知って、驚かれる方もいらっしゃるでしょう。

タイトルは「戦争のつくりかた」ですが、

内容は「戦争のつくれかた」と言えるかもしれません。

いままで戦争をしてこなかった国が

いつしか戦争のできるしくみを持つようになる、

そのようすが淡々と描かれていきます。

しかし、結末には希望もあります。

小学校高学年のお子さんにも読めるよう、やさしい表現を心がけ、  
難しい漢字にはルビを振りました。」

---

こちらに挿絵がちゃんと見える WEB 版

<http://smile.hippy.jp/ehon/>

がある。

是非、各方面での普及・活用を願うものである。

原田太郎

<http://nazuna.com/>

---

<イベント> 劇団文化座 戦後 60 年アトリエ企画「シリーズ・いのち」

---

私たち劇団文化座は、今年創立 63 年を迎えた、戦争を経験している数少ない  
劇団の一つです。中でも旧満州で敗戦を迎え、劇団ごと抑留された体験を持っ  
ているため、戦争に対する思いは強いものがあります。戦後も一貫して「戦争  
と日本人」ということを創造の一つの柱にしてきました。近年でも

「遠い花」

<http://bunkaza.com/history/tooihana/peach2000.html>

「若夏に還らず」

<http://bunkaza.com/play/urizun/>

「あの人は帰ってこなかった」

<http://bunkaza.com/play/ano hito/index2003.html>

など、戦争に運命を翻弄された庶民に光を当てた作品を創り続けています。

翻って本年は、戦後 60 年の節目にあたる年です。さまざまな団体がさまざ  
まな観点からの戦後 60 年企画を行っています。私たちも私たちの持っている歴  
史を背景としてあらためて戦後 60 年を考えてみたいとおもいました。

そこで、テーマとして「いのち」という言葉をキーワードに、アトリエを  
使った企画を立ち上げることにしました。

ひとの「いのち」の持つ輝きと重さ、そこから生れる「平和」の尊さ、そしてそれを踏みにじる「戦争」の悲惨さ、愚かさ——。「いのち」という言葉から派生するさまざまな思いを、さまざまな形で具象化し、アトリエという小さな空間で皆さんと共有したいと思うのです。そしてそれが「いのち」を大切に  
する未来へと繋がっていくことの一助になればと願うのです。

◆朗読『錫杖の花 - 巷説・勝道上人 - 』

10月28日（金）開演 19：00

作：堀江安夫 演出：小林裕 朗読：佐々木愛

「勝道上人をご存知？」 この作品は、志賀かう子さん（文化座友の会長）の一言ではじまりました。

徳川家や東照宮で名を知られる日光の繁栄の影に、人知れず語り継がれる勝道上人と十人の弟子達の偉業。貧しい土地の人々の救済のため、生命をけずって日光を開山した勝道上人達の生様は、何故、今も下野の人々に熱っぽく語り継がれるのか？ 比叡山や高野山よりも早く日本に於ける山岳仏教の先駆けであったと言える勝道上人のナゾに迫ります。

\*とちぎ発見：勝道上人

[http://www.pref.tochigi.jp/gateway/jinbutsu/jinbutsu1\\_03.html](http://www.pref.tochigi.jp/gateway/jinbutsu/jinbutsu1_03.html)

◆マンガと朗読『昭和二十年の絵手紙 私の八月十五日』

10月30日（日）開演 15：00／11月2日（水）開演 14：00

構成・演出：小林裕

出演：田村智明、佐藤哲也、米山実、後藤晋、高村尚枝、岩崎純子、  
五十嵐雅子、小林悠記子

真赤な太陽、大輪のひまわり…、漫画家先生たちがむかえた六十年前の八月十五日

マンガ家集団の皆様のご協力を得て、現在活躍されている先生方の「私の八月十五日」をマンガと朗読でご覧いただきます。おかしくて、悲しくて、そしてペーソズの溢れる60年前の「八月十五日」。一度この作品を見た人は、必ずやその事を誰かに伝えずにはいられなくなるでしょう。各回ゲストを迎えてのトークショーを行います。

※戦争体験のある漫画家ら百十一人が「いまでも変わらず地球のすみずみで戦争が勃発し、人命が失われ、たくさんの涙が流れ続けているのは情けない」（私の八月十五日）の会代表幹事・森田拳次さん）と終戦の記憶を絵と文章でつづった

『私の八月十五日 昭和二十年の絵手紙 百十一名の漫画家・作家達の作品集』

<http://7andy.yahoo.co.jp/books/detail?accd=31414273>

私の八月十五日の会／編 2005年 第34回 日本漫画家協会賞・大賞受賞

出版社名 私の八月十五日の会

出版年月 2004年7月 ISBNコード 4-902220-05-9 税込価格 8,400円

頁数・213P 縦サイズ・35cm

から作品を展示し朗読します。

作品や文章を寄せたのは、赤塚不二夫、ちばてつや、水木しげる、やなせたかし、里中満智子、手塚治虫の各氏らの漫画家のほか、落語家の林家木久蔵氏や作家の永六輔氏、海老名香葉子さんら。

◆劇映画『沖縄』（1970）脚本・監督：武田敦 主演：佐々木愛・地井武男

\*あらすじ・キャスト・スタッフ詳細↓

<http://movie.goo.ne.jp/movies/PMVWKP19219/index.html>

10月31日（月）開演14:00（満席・完売）

目を見開いてこの沖縄の歴史を、現実を見つめて下さい。敗戦から復帰前夜までの沖縄の歩みを描いた唯一のこの作品は、今でも観る者の胸を打ちます。未だに全面返還される事無く、悲劇の続く沖縄の原点を今一度、皆さんと共に鑑賞、語り合しましょう。当日は、ゲストをお迎えして、撮影時のエピソード、当時の状況などをお話していただきます。

ゲスト：地井武男さん、石津康彦さん

◆対談『いのち輝いて—ハッピークラスと不思議なレストラン—』

11月3日（木）開演14:00

人とつながって、みんなでハッピーになろう！ 「学校に来るのはハッピーになるためだ。みんなでハッピーになろう」と生徒達と真剣に向き合う金森俊朗先生と「もろさや弱さをかかえたままでいいから、一緒に生きていこうよ。あなたが来てくれたことを心から歓迎するから。」こんな思いでクッキングハウスを設立し活動している松浦幸子さんの対談です。

「仲間と一緒にいきいきと生きよう」これがお二人の共通項ではないでしょう



か？ 生きていく中での人とのつながりをそれぞれの立場からお話していただきます。

\*金森俊朗の部屋（日本生活教育連盟石川サークルサイトから）

[http://www.spacelan.ne.jp/~pine/kanamori\\_.htm](http://www.spacelan.ne.jp/~pine/kanamori_.htm)

\*クッキングハウス

<http://www.cookinghouse.jp/>

会場 文化座アトリエ（客席数 100 席）東京都北区田端 3-22-12

<http://bunkaza.com/atelier.html>

制作協力券（日時指定・全席自由・税込） 一般 2,000 円

学生（小中高校生）1,500 円

お問い合わせ・お申し込み

劇団 文化座

〒114-0014 東京都北区田端 3-22-12

TEL 03-3828-2216 FAX 03-3828-2260

<http://bunkaza.com/>

\*劇団 文化座 代表・佐々木愛

<http://bunkaza.com/SASAKI-AI.html>

は、東京下町 9 条連の世話人代表

\*「憲法 9 条-世界へ未来へ 連絡会」（略称・9 条連）

<http://www.9joren.net/>

文責：なずなコム代表 原田太郎

<http://www.nazuna.com/>

---

<編集後記> 客商売の基本がくずれているような気がする

---

先日、とあるチェーン店の居酒屋での出来事である。

この店では、注文はテーブル上にある端末から入力する。入力が完了すると、スピーカーから「ありがとうございました」と声が出る。

ところが、注文してもなかなかものが出てこない。「頼んだのがこないんですけれども」と店員に声をかけると、店員がまずしたのは端末の確認であった。

客商売ならば、まずは、申し訳ありません、と一言いうべきじゃあないか——  
と思うわたしはふるいのだろうか。

2005年10月20日

山崎農業研究所会員・田口 均

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

---

◎投稿アドレス変更のお知らせ

---

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

[y.noken@taiyo-c.co.jp](mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp)

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

-----  
次回 170号の締め切りは10月31日、発行は11月4日の予定です。

---

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

---

書名：岩波アクティブ新書 45『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735 円 発行日：2002 年 10 月 4 日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

---

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_mailmag.html](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html)

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 169 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://blog.mag2.com/m/log/0000014872>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_mailmag2.html](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html)

2005.10.20（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

\*\*\*\*\*ここまで『電子耕』\*\*\*\*\*

.

..